

実公平7-53492

(24) (44)公告日 平成7年(1995)12月13日

(51)Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 0 1 K 87/08				
<del>87/00</del>	6 1 0 Z	8602-2B		
		8602-2B	A 0 1 K 87/ 00	6 2 0 D

(全 5 頁)

(21)出願番号 実願昭62-178973

(22)出願日 昭和62年(1987)11月25日

(65)公開番号 実開平1-82765

(43)公開日 平成1年(1989)6月1日

審判番号 平6-11748

(71)出願人 999999999  
ダイワ精工株式会社  
東京都東久留米市前沢3丁目14番16号

(72)考案者 尾関 孝文  
東京都東久留米市前沢3丁目14番16号 ダイワ精工株式会社内

(72)考案者 酒井 喜久夫  
東京都東久留米市前沢3丁目14番16号 ダイワ精工株式会社内

(74)代理人 弁理士 古谷 史旺

審判の合議体  
審判長 安達 和子  
審判官 松島 四郎  
審判官 小林 正巳

(56)参考文献 実開 昭62-45971 (J P, U)  
実開 昭61-43877 (J P, U)

(54)【考案の名称】 釣竿用ハンドル

1

## 【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】前握部(4)と後握部(2)の間に位置したリール取付部(3)を有すると共に、このリール取付部(3)の上面にリール設置面(6)を形成して成る釣竿用ハンドルにおいて、

上記リール設置面(6)には、その左右方向の水平距離(D)が、その上面から下面までの距離(H)より大きく、かつ上記リール取付部(3)の幅(d<sub>2</sub>)より大きく膨出する膨出部(6a)が形成され、

上記リール設置面(6)と反対側のリール取付部(3)への指係合面(7a)は、ハンドル本体(1)の軸芯(S)から下面までの距離(h)を半径とする円弧よりも大きく、指の配列及び折曲げ角度に適合する円弧面をなしている

ことを特徴とする釣竿用ハンドル。

2

## 【考案の詳細な説明】

## 【産業上の利用分野】

本考案は、リールが装着できる釣竿用ハンドルに関し、特にリール装着部分を把持した時の指の接触感覚を良好にする釣竿用ハンドルに関する。

## 【従来の技術】

ベイト・キャスティングリール等のリールの装着を可能にしたキャスティングロッドのハンドルには、例えば特開昭61-177933号公報及び実開昭62-45971号公報に開示するものが知られている。

この種のキャスティングロッド用ハンドルにおいては、そのリール取付部分の縦断面は、リール脚設置面が平坦で、指接触面が円形又は角形を成す半円形状あるいは四角形状に形成されている。

【考案が解決しようとする問題点】

3

4

上述のような従来のキャスティングロッド用ハンドルでは、キャスティングによりリールから繰り出された釣糸をハンドル操作によりリールに巻き取る時、一方の手の少なくとも人差指、中指及び薬指をハンドルのリール取付部に下面から押し当て、親指をリール上面に押し当てて、リールを含むハンドル全体を把持し、この状態で他方の手によりハンドルを操作して糸を巻き取るのであるが、この場合、人差指、中指、薬指（以下、人差指等と言う）が押し当てられるリール取付部の接触面がリール脚の幅寸法に対応した半円形又は四角状であるため、人差指等をリール取付部に下面側から押し当てた時、人差指等がリール下面で制約されて人差指等とリール取付部との接触面積が少なくフィット感が得られないほか、握りにくく、また、フィット感が得られるように強く握ると、人差指等の一部がリール取付部に局部的に押圧されて痛みを生じさせる結果となると共に、指先がリールの角部に強く押し当てられたり、あるいはリール取付部とこれにセットされたリール間に形成される隙間内に差し込まれるなどして指先を損傷する虞があった。

#### 〔考案の目的〕

本考案は上記のような問題点を解決したもので、リール取付部に対する人差指等のフィット感、握り感を良好にすると共に、指に痛み及び怪我を生じさせることのない釣竿用ハンドルを提供することを目的とする。

#### 〔問題点を解決するための手段〕

本考案の魚釣用ハンドルは、前握部と後握部の間に位置したリール取付部を有すると共に、このリール取付部の上面にリール設置面を形成して成る釣竿用ハンドルにおいて、上記リール設置面には、その左右方向の水平距離が、その上面から下面までの距離より大きく、かつ上記リール取付部の幅より大きく膨出する膨出部が形成され、上記リール設置面と反対側のリール取付部への指係合面は、ハンドル本体の軸芯から下面までの距離を半径とする円弧よりも大きく、指の配列及び折曲げ角度に適合する円弧面をなしているものである。

#### 〔考案の作用〕

本考案においては、リール取付部のリール設置面が膨出部により左右方向に拡大されることでリール脚幅より大きくなり、そして、このリール設置面に対応してリール取付部の指係合面は表面積の大きな、かつ手の指の配列及び折曲げ角度に適合する円弧面に形成されるから、リール取付部の指係合面に対する指のフィット感が良好になり、握り良く、かつ安全なハンドルとし得る。

#### 〔考案の実施例〕

以下、本考案の実施例を図面について説明する。

第1図乃至第3図は本考案にかかる釣竿用ハンドルの第1の実施例を示すもので、第1図は平面図、第2図はそのII-II線の断面図、第3図は側面図である。

図において、1はハンドル本体で、表面をコルク、ゴム等の層で覆った合成樹脂製の後握部2と、この後握部2

の前端に接合され合成樹脂材から一体成形されたリール取付部3と、このリール取付部3の先端に結合され、表面をコルク、ゴム等の層で覆った合成樹脂製の前握部4とから構成され、そしてこれら前握部4、リール取付部3及び後握部2の軸心には、前握部4の先端から後握部2の略中間に達する釣竿5が挿通固着されている。

上記リール取付部3の上面には釣竿5の一部が露出するように凹状に切り欠いてリール設置面6が形成され、さらに下面にも釣竿5の一部が露出するようにして手の人差指、中指及び薬指が係合される指係合用凹部7が形成されていると共に、上記リール設置面6には、その左右方向（第1図においては上下）へ円弧状の膨出部6aを有し、そして、その前後両端部は前、後握部4、2側へ行くにしたがい縮小される楕円形状になっている。リール載置面6は、第2図に示すように、リール載置面6の上面から下面までの距離Hが、左右方向の水平距離Dより小さくしてある。また、リール載置面6の膨出部6aは、リール取付部3の幅 $d_2$ より大きく膨出している。これにより、リール載置面6の膨出部6aの左右方向の水平距離Dをリール脚11a（第4図及び第5図参照）の幅寸法 $d_1$ 及びリール取付部3の幅寸法 $d_2$ より十分大きくする。また、上記リール設置面6の膨出部6aと対応する指係合用凹部7の指係合表面7aは、第2図に示すようにハンドル本体1の軸芯Sから下面までの距離hを半径とする円弧よりも大きく、指の配列及び折曲げ角度に適合する円弧面に形成したものである。この円弧状の指係合表面7aは人差指等の折曲げ角度に無理がなく、かつ比較的に広い接触面積が確保できる円弧面になっている。

なお、この円弧表面の大きさ及び径は、リール設置面にセットされるリールの大きさ、釣竿の太さにより変化するものである。

また、上記リール設置面6の前端側にはリール脚11aの一端部が係合する固定駒8がハンドル本体1の長手方向に移動可能に取り付けられており、さらにリール設置面6の後端側にはリール脚11aの他端部が係合する凹部9が形成されている。10はリール取付部3の後端部下面に突設した指掛部である。

上記のように構成された釣竿用ハンドルにおいて、これにリール11を装着する場合は、第4図に示すようにリール11の脚11aの両端部をリール取付部3の凹部9及び固定駒8に係合することにより固定する。

ハンドルに固定されたリール11を巻き取り操作する場合は、第4図に示すように手12の人差指12a、中指12b及び薬指12cの第2関節部分をリール取付部3の指係合用凹部7における指係合表面7aにこれを取り巻くよう押し当て、さらに親指12dをリール11の上側面に押し当てて、リール11を含むリール取付部3全体を把持する。この時、リール取付部3の指係合用凹部7の指係合表面7a及び釣竿5の露出表面部に押し当てられた人差指等は、第5図に示すように釣竿5の露出表面及び指係合表面7aの

5

形状に沿った状態に折り曲げられるが、この釣竿5の露出表面及びこれに連なる指係合表面7aの形状は、人差指等の折曲げに無理の生じない折曲げ状態になり、しかも指係合表面7aは釣竿5の部分を中心にして左右方向へリール11の下面両側に向けて拡大される形状になっているため、人差指等のリール取付部3に対する接触面積が大きくなり、リール取付部3に対するフィット感が良好になると共に、リール11を含めたハンドル本体1の把持性が安定し、長時間使用時の手の疲労が軽減され、さらに仕掛けにかかった魚とのファイティング時にリール11及びハンドル本体1を強く握り結めても指に痛みを与えることがほとんどない。

また、リール取付部3のリール設置面6は、釣竿5を中心にして左右方向へ円弧状に膨出され、これによりリール設置面6の左右方向の幅を大きくしてリール11の左右側枠11bとリール取付部3間に形成される隙間13（第5図参照）を減少させるようにしているため、指先が隙間13に差し込まれて、指先を損傷する虞もなくなる。

従って、上述の実施例にあっては、把持性が良く、かつ安全で操作性の良好な釣竿用ハンドルを提供し得る。

第6図は、本考案の第2の実施例を示す釣竿用ハンドルの概略平面図である。

図において、第1図と同一符号は同一部分を表しており、第1図と異なる点は、リール取付部3に形成されたリール設置面6の左右方向へ膨出する部分6bの長手方向の長さを長くしたところにある。

このようにすれば、大型リールを装着するハンドル用として好適となる。

また、第7図は、本考案の第3の実施例を示す釣竿用ハンドルの概略平面図である。

同図において、上述の実施例と異なる点は、リール取付部3に形成されたリール設置面6の左右方向への膨出部分6cを角型に形成したところにある。

この実施例においても、上記第2の実施例と同様に大型リール用のハンドルとして好適となる。

第8図は、本考案の第4の実施例を示す釣竿用ハンドルの概略平面図である。

この実施例においては、第1図に示す場合と同様に左右

6

方向へ膨出したリール設置面6の膨出部分6dに手の指が係合する凹凸部14を形成したものである。

このようにすれば、リール取付部3に係合される各指のなじみ性が良くなり、かつリール取付部3に対するフィット感もさらに向上することになる。

なお、上記実施例では、ハンドルのリール取付部の上下面に釣竿の一部が露出する構造の場合について述べたが、このような構造のハンドルに限定されない。

#### 【考案の効果】

10 以上のように、本考案によれば、リール設置面部分から指係合面までの距離を小さく、指で支持しやすい大きな円弧面としたので、リールとハンドルを同時に把持しやすく、指係合面に対する指のフィット感が良好となり、操作時手が痛くなったりしない。また、左右部分の水平方向距離を大きく膨出形成したので、指当て部分が膨出部でカバーされ、指先の差込みが防止でき安全性を確保できる。

#### 【図面の簡単な説明】

第1図は本考案の釣竿用ハンドルの第1の実施例を示す平面図である。

第2図は第1図のII-II線に沿う断面図である。

第3図は第1図の側面図である。

第4図は本考案の釣竿用ハンドルにリールを装着して手で把持した状態を示す側面図である。

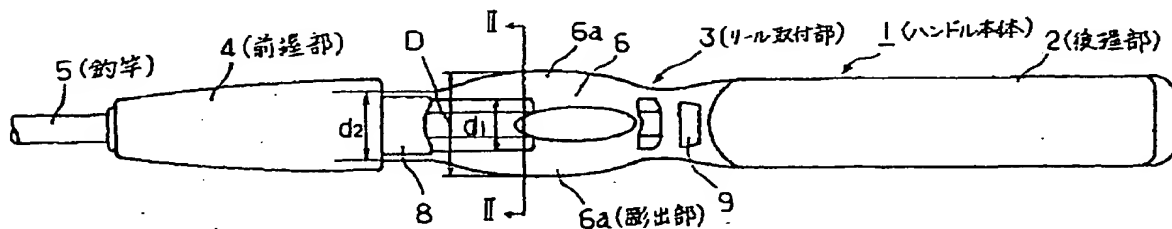
第5図はその説明用断面図である。

第6図乃至第8図はそれぞれ本考案の他の実施例を示す釣竿用ハンドルの概略平面図である。

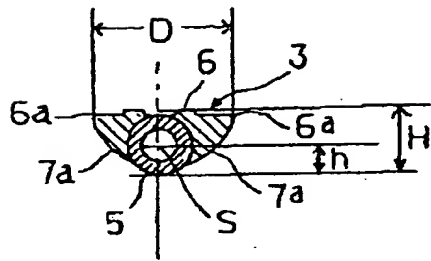
#### 【主要な部分の符号の説明】

- 1……ハンドル本体
- 2……後握部
- 3……リール取付部
- 4……前握部
- 5……釣竿
- 6……リール設置面
- 6a, 6b, 6c, 6d……膨出部
- 7……指係合用凹部
- 7a……指係合表面
- 10……指掛部。

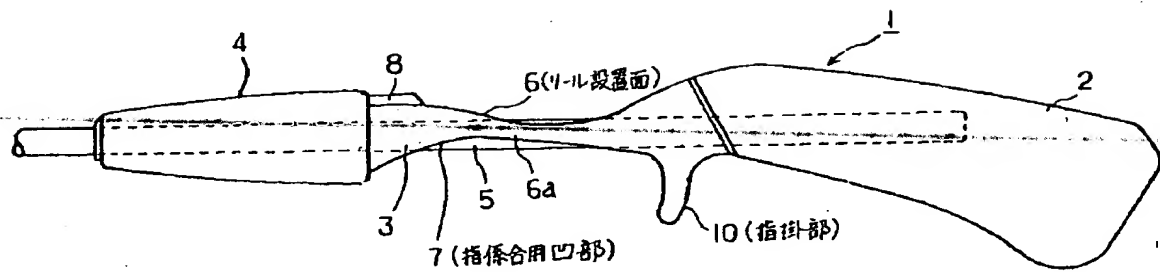
【第1図】



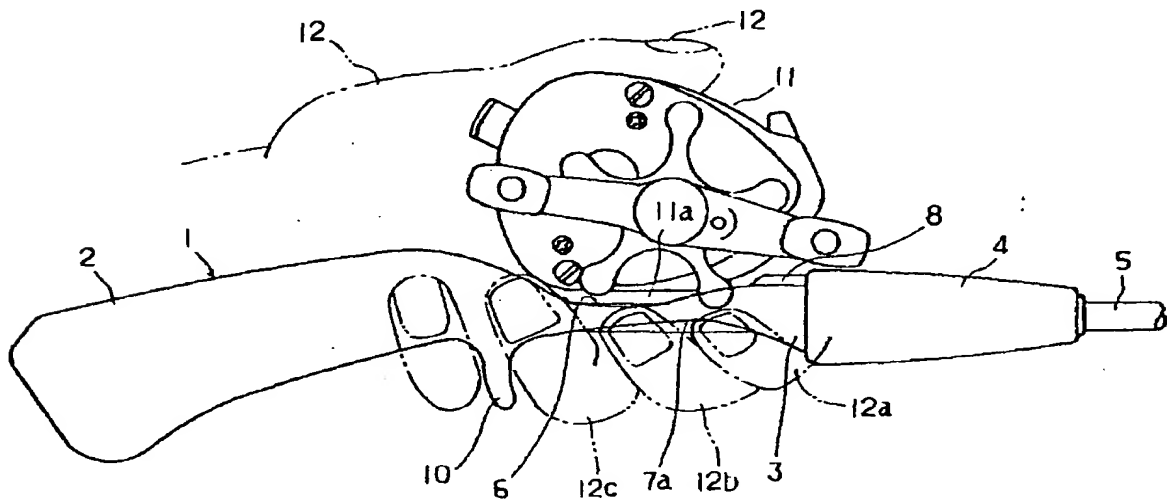
【第2図】



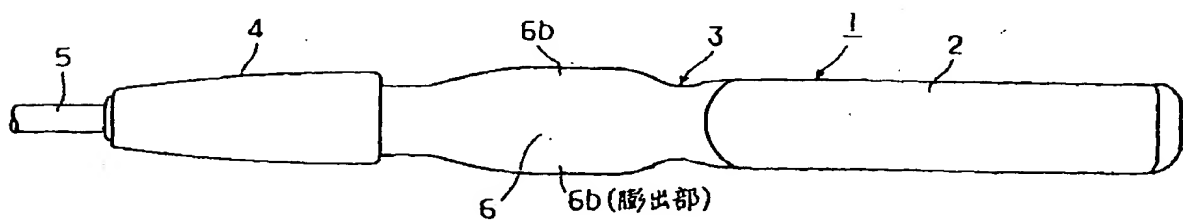
【第3図】



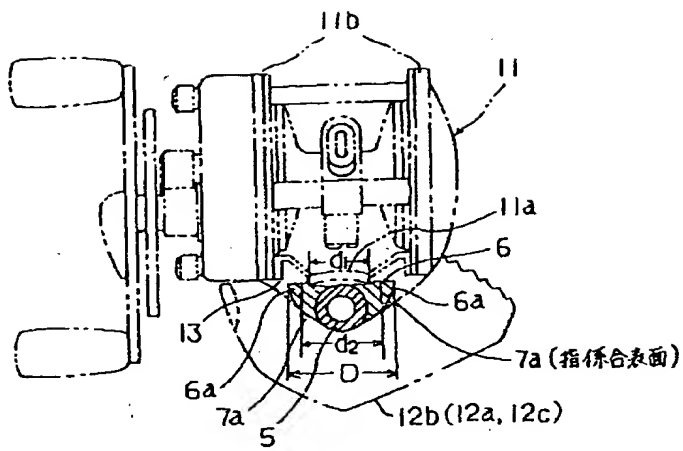
【第4図】



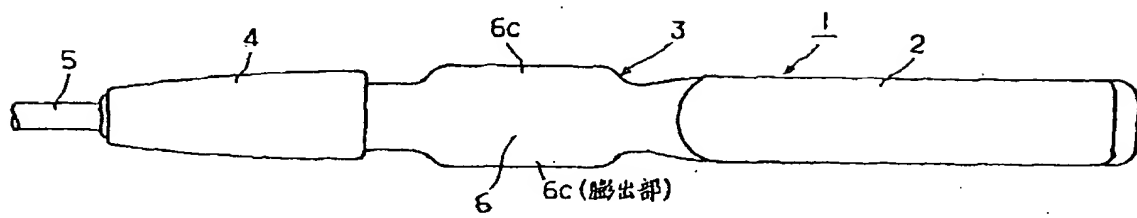
【第6図】



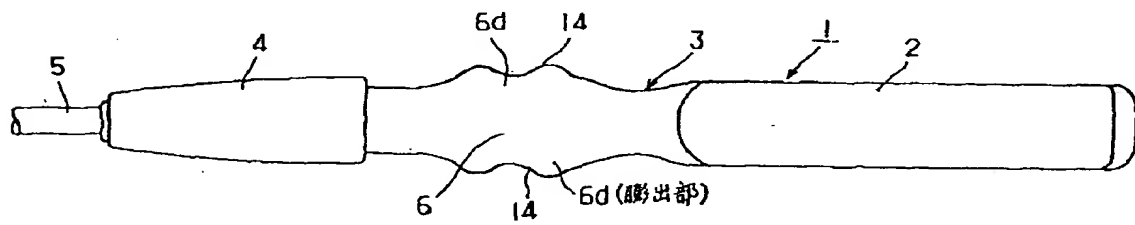
【第5図】



【第7図】



【第8図】



THIS PAGE BLANK (USPTO)